



～友 愛～

富田中学校だより

学校教育目標 「確かに生きる」 令和 3年 9月21日 No.11

□令和3年度 全国学力・学習状況調査

5月27日(木)に3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。平成19年から実施されていましたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大による休校等で中止になり、2年ぶりの実施となりました。



個人の結果は、本日、3年生に個票を渡しましたので、ここでは調査結果からみえる富田中学校の強み・弱みと今後の取り組み等を以下に紹介させていただきます。なお、この調査は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

【国語】

すべての領域、問題においても県平均・全国平均を大きく上回る結果でした。その中でも、「相手や場に応じて敬語を正しく使う」、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」の問題が特に高い正答率となりました。このことから、文章を読み取る力が定着しているとともに、読み取ったことに対して自分の考えを文章としてまとめる力が身につけていることが伺われます。「新聞を読んでいる」と答えている生徒が県平均・全国平均よりも大きく上回っていることも大きな要因と考えます。

観点別にみると、「言語についての知識・理解・技能」及び「書く力」が全国正答率を大きく上回っていることは、基本的な練習問題から段階的に何度も繰り返し取り組んだ結果だと思われます。また、質問紙の「国語の学習が大切だと思う」生徒が多いことや全国平均と比べて無解答率が低いことから、粘り強く取り組むことができていることがわかります。

今後の授業において、教科書を中心に様々な文章や作品に触れた際に、難しい語句などについて意味を丁寧に確認しながら使用例を踏まえ、「語彙力」を高められるような授業を進めていきたいと思います。

【数学】

「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」などの領域や問題についても県平均・全国平均を大きく上回っています。その結果、全体としての正答率が高い結果となっています。しかし、「与えられた表やグラフや必要な情報を適切に読み取ることができる」かの問題については、正答率が県平均・全国平均を少し下回る結果となりました。この結果を踏まえ、授業において生徒に「数学の領域での弱み」として概要を伝え、仲間とともに課題の解決に向けての取り組みを進めたいと考えています。

普段から、3年生は学習に取り組む意識や姿勢が非常に高い学年です。「数学が大切である」、「数学は将来役立つ」、「数学が日常生活に活用できないか考える」、「数学の問題でわからないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える」、「公式やきまりの成り立ちを理解するようにしている」など様々な設問でほとんどの生徒が前向きに回答していました。

こうした意識や姿勢に裏付けされるように、授業を大切に、学習内容を理解すべく努力し、自らすすんで学習に励もうとする結果として、今回の結果があるものと考えます。そして、1年次からの基礎基本の定着・家庭での学習習慣の定着が重要であることを認識できた結果でもあります。

今後もこうした生徒の期待にそえるよう、日々の授業を大切に、生徒たちにとってわかる授業・できる喜びのある授業を進めていきたいと思えます。

【生徒質問紙における特徴・課題】

「家で自分で計画を立てて学習しているか」、「休業中に計画を立てて取り組めたか」という質問では全国と比べて、大変高い結果となりました。この結果から、家庭学習の習慣がついている生徒が多いことがうかがえ、家庭でのスマートフォン等の機器の使用時間も短くなっている傾向があります。この安定した学習習慣の結果、様々な教科での学習への意識の高さが高い数値での定着につながっていると考えられます。

加えて、「自分には、よいところがあると思えますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対しても、肯定的な回答をした生徒の割合も非常に高く、全国平均を大きく上回っています。生徒一人一人の良いところ大切にしていこうという、教師や生徒同士をつなぐ丁寧な関わりを続けてきた結果であると考えられます。また、1年次からの進路学習を受験や職業にとどめず、社会とどのように関わり、つながっていきたいかを考える機会としてきたことや、2年次にはコロナ禍において職場体験学習が実施できない中でも、職業講話という形で様々な職種から10名の方に講師として講話をいただき、働くことについての学習を通じて将来に向けての自分の生き方を考えることができたことも大きな要因のひとつと考えられます。

授業に関しては、「教科の勉強が大切だ」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と思う傾向が全国に比べて高く、授業や学ぶことの意義を理解して学習に取り組んでいることが伺えます。また、「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」生徒や「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表」している生徒の割合も高いと言えます。本校では、「学校づくりビジョン」の学校づくり三つの決意の一つに、「授業を大切にする学校」をあげています。教師と生徒が一緒になり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んできた成果であると思えます。生徒を主体とした授業を展開し、確かな学びの定着に向けて、引き続き取り組みを進めていきたいと思えます。

家庭での様子や地域との関わりに関しては、「朝食を毎日食べる」「今住んでいる地域の行事に参加している」生徒の割合が特に高く、家庭での安定した生活と、地域とのつながりの強さが特徴として挙げられます。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」傾向にあり、地域の支援をいただきながら、2年時の総合的な学習の中で富田再発見や富田未来会議の取組で地域と自分との関わりについて学習した結果と考えています。

一方で、課題として、「学校の授業以外に平日の読書時間」は短い傾向にありました。また、「学級での話し合いを生かして、努力すべきことを決めて取り組んでいるか」という質問でも全国と比較すると少し低くなっています。学校生活の中では、考えや思いをうまく周りに伝えられなかったり、人間関係を広げられなかったりする生徒もおり、コミュニケーション能力の若干の弱さがうかがえます。これらの課題改善に向けて、読書活動等を通じて活字からイメージする能力や、様々な物語や考えに触れることで、豊かな感性を育み、コミュニケーション能力へとつなげていきたいと考えています。

生徒たちは、学校や家庭において大変落ち着いた環境の中で、しっかりと取り組むことができています。これは、学校、地域、家庭が協力して生徒を温かく見守り、育ててきたからだと思えます。今回の結果で満足することなく、引き続き生徒の健やかな成長と確かな学びを保障していくため、取り組んでまいります。今後とも学校教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。